

練馬区立向山庭園改築基本構想 素案（骨子）

平成 21 年（2009 年）8 月

練 馬 区

< 目 次 >

第1章 向山庭園の現状と課題	1
1 向山庭園の沿革	
2 向山庭園の現況	
3 向山庭園の利用実績（平成20年度実績）	
4 向山庭園の課題	
第2章 向山庭園のあり方	4
1 向山庭園改築の方向性	
2 向山庭園の持つべき機能・役割	
第3章 向山庭園改築の基本的な考え方	6
1 建物…改築（建替え）とする。	
2 庭園…現在の良い点を残しつつ、改修を行う。	
3 施設の運用や利用方法の改善	
4 スケジュール	
第4章 向山庭園改築の基本的な整備内容	7
1 基本的な考え方に基づく施設整備計画	
2 管理運営計画	

参考資料

- (1)練馬区立向山庭園改築懇談会検討経過
- (2)練馬区立向山庭園改築懇談会設置要綱
- (3)練馬区立向山庭園改築懇談会委員名簿
- (4)利用者アンケート実施結果

第1章 向山庭園の現状と課題

1 向山庭園の沿革

昭和55年5月1日に開園した向山庭園は、昭和4年から昭和6年にかけての浜口内閣時代の江木鉄道大臣邸であったといわれている。付近の住宅は昭和53年12月1日に練馬区の「みどりの保全モデル地区」の第1号に指定された城南住宅組合として知られ、閑静な住環境を形成している。

当庭園の建設にあたっては、当初、建設会社によるマンション建設計画があり、それに対する反対運動から、当地の環境を生かした自然公園建設の陳情が城南住宅組合等から出され、単に集会、娯楽機能を中心としたものではなく、文化教養を主眼とし、情操を高めるために役立つ純文化的な施設として整備が行われた。

この地は、大正12年の関東大震災まで、草や木に覆われたところであったが、その直後に住宅化の話が進み、大正13年に40余名の名で誕生した城南田園住宅組合の借用地となった。大正15年に豊島園が開園し、昭和2年の豊島園駅の開通後、宅地化が進められていった。住宅組合の規約では、当初の環境を保全するために地域の緑化や生垣などの工作物についての一定の取決めが設けられ、「みどりの保全モデル地区」を希望する素地となっている。

また、この付近から北側の豊島園にかけての一带はかつて矢の山といわれ、中世豊島氏の一拠点であった練馬城址としても知られている。

なお、向山（こうやま）の地名は、江戸時代は上練馬村の小名（こな）向山であったが、明治22年、町村制で東向山、西向山、北向山、向山ヶ谷戸（こやまがいと）などに分割された。板橋区成立の時に練馬向山町となり、その後、練馬区独立に際し「向山町」となった。地名の由来は石神井川左岸の高台から南を望み向かいの山という意味でムカウヤマと呼んだのではないかと、という説がある。

2 向山庭園の現況

(1) 所在地

練馬区向山三丁目1番21号

(2) 開設日

昭和55年4月1日（開園日は昭和55年5月1日）

(3) 敷地面積

2613.64 m²

(4) 建築面積

母屋 木造平屋 320.89 m²

茶室 木造平屋 28.98 m²

(5) 延床面積

343.24 m²

(6) 施設内容

母屋 和室 3 (10 畳、12 畳、20 畳)

茶室 和室 1 (8 畳)

※駐車場・駐輪場なし。

(7) 施設運営

指定管理者 アゴラ造園株式会社 (平成 18 年度～21 年度)

(8) 開園時間

午前 9 時～午後 9 時 30 分 (庭園散策は午後 5 時まで)

(9) 休園日

年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)

(10) 団体利用方法

利用希望日の 3 か月前から申込受付を行っている。利用料金は下表のとおり。

利用区分	午前 (9:00～12:00)	午後 (13:00～17:00)	夜間 (17:30～21:30)
茶室 (8 畳)	600 円	800 円	800 円
和室 1 (10 畳)	600 円	800 円	800 円
和室 2 (12 畳)	900 円	1,200 円	1,200 円
和室 3 (20 畳)	1,200 円	1,600 円	1,600 円

3 向山庭園の利用実績 (平成 20 年度実績)

(1) 集会施設機能

① 利用者数 : 2,540 団体、19,013 人

※ 地域集会所平均 : 1,382 団体、16,344 人

② 団体活動内容

茶会 30.9%、撮影会 9.2%、囲碁 7.4%、ヨガ 6.9%、その他 45.6%

※その他はフラワーデコレーション、謡曲、着付け、舞踊、気功等。

③ 利用団体の内訳 : 区内 7 割、区外 3 割

④ 年間施設利用率 : 58.0% (夜間利用を除く利用率 66.8%)

※地域集会所平均：45.7%

(2) 文化学習機能

① イベント

アジサイ祭り（茶会、フラワーアレンジメント教室など）、七夕祭り（竹の花入れ教室、切り絵教室など）、月見会（ミニ盆栽教室、切り絵教室、抹茶の提供など）など区民参加による 10 事業を実施。参加 399 人。

② クラブ活動の運営サポート

月 2 回（数寄茶会、雅楽多倶楽部、ママと一緒になごみ空間の 3 クラブ）

(3) 公園施設機能

庭園参加者実績：6,693 人（18.8 人／日）

庭園ボランティア：登録 8 名

4 向山庭園の課題

練馬区立向山庭園は、区民の文化の向上に寄与する目的で昭和 55 年に開設され、茶道や囲碁、謡曲など、区民が文化活動を行う場として利用されている区内唯一の和風の区立施設である。自然の地形を生かした庭園内は、樹木に囲まれ、中心部にはかつて湧水があったことから池が設けられており、区民の憩いの場として利用されている。平成 20 年度には 1 万 9 千人の施設利用者と 6 千人の庭園参観者が訪れている。

しかしながら、開設から 29 年が経過し、木造の母屋、茶室には老朽化と地盤沈下による建物の傾きが生じており、地盤沈下の進行により、建物の補強のみでは抜本的な対策とならないことが判明した。

このほか、建物や庭園が現在のバリアフリー基準（ユニバーサルデザイン）などに対応していない、ブロック塀が破損している、庭園の池の水量が低下し、適切に管理ができなくなっているなど、施設の不具合が顕著になってきている。

このため、区では、平成 19 年 3 月策定の練馬区耐震改修促進計画に基づく耐震診断結果を踏まえ、平成 21 年 3 月に策定された耐震化整備プログラムに基づき、母屋、茶室の改築および庭園の改修を行うこととした。今年度策定予定の練馬区長期計画（平成 22 年度～26 年度）においても、向山庭園の改築について計画化する予定である。

第2章 向山庭園のあり方

1 向山庭園改築の方向性

日本的情緒が豊かな庭園をみどりあふれる憩いの場として、また、集会施設機能、文化学習機能、国際交流機能等を併せ持つ文化施設として施設整備を行う。

改築を契機に、施設の利用しやすさを向上させるとともに、みどり豊かな周辺環境を持つ立地と駅や区役所からの交通利便性を活かし、文化芸術活動をはじめとする区民の自主的活動を活発化し、練馬区の新たな魅力を引き出す文化拠点としての役割を果たすことを目指す。

整備に当たっては、向山庭園の開設の経緯等を踏まえ、周辺の住環境との調和を図るとともに、現在の土地の形状を活かすなど、特色ある施設形態を維持することを基本とする。茶会や囲碁、謡曲、舞踊など、日本文化に関わりのある文化芸術活動での利用が多いことを踏まえ、区民相互の活動や交流、憩いの場としての機能を引き継ぐとともに、和風施設であるという特色を活かし、国際交流や外国からの訪問団など区への来賓者を案内できる機能を担える施設とする。

また、駐車場やアプローチの整備等のバリアフリー化を図り、誰もが日本文化に気軽に触れる機会を提供できる施設づくりを目指す。

2 向山庭園の持つべき機能・役割

- ① 日本の伝統文化に関する知識や教養が深まる施設
- ② 四季折々の日本庭園の美しさを楽しむことができる施設
- ③ 文化芸術活動など区民の活動の場となる施設
- ④ 交流とおもてなしの空間としての施設

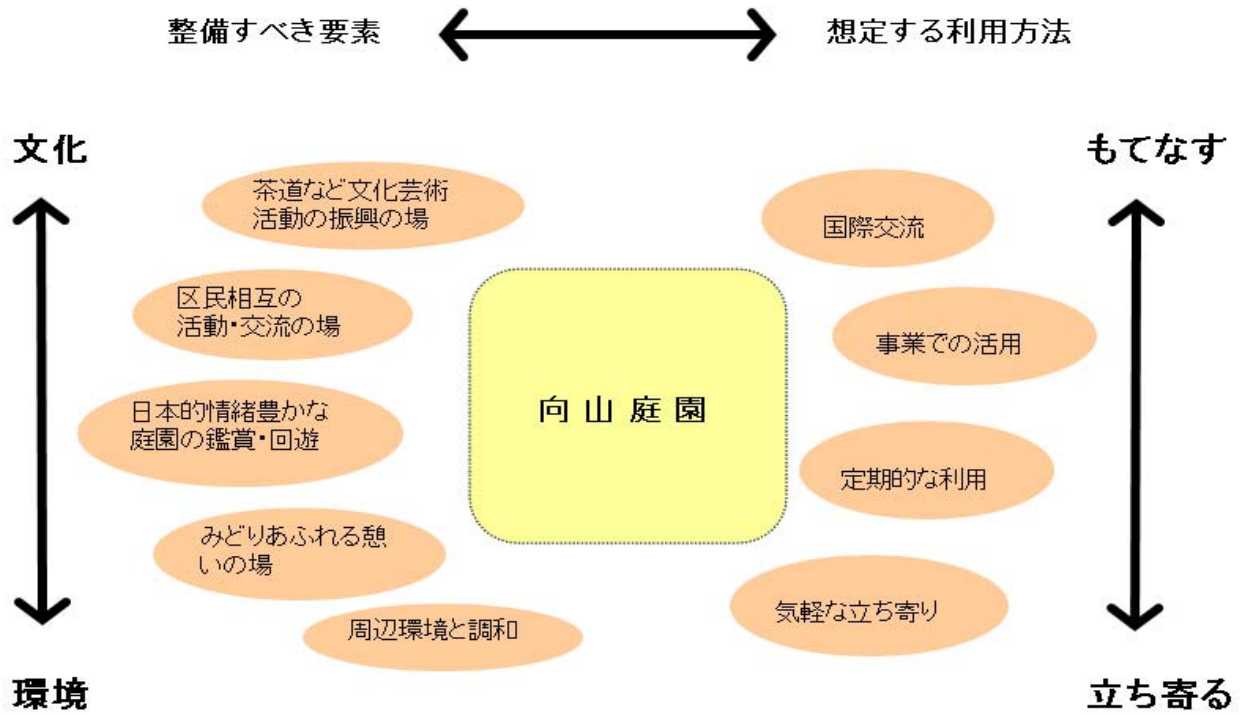


図1. 向山庭園のあり方の概念図

第3章 向山庭園改築の基本的な考え方

1 建物…改築（建替え）とする。

次の基本的な考え方により、全体の施設構成をレイアウトする。

- (1) 耐震性および耐久性の向上を図る。
- (2) ユニバーサルデザインの視点から、利便性の向上を図る。
- (3) 利用者から来賓者まで幅広くもてなす質の高い空間とする。
- (4) 練馬区環境基本条例に則し、環境・省エネルギーに配慮した施設・設備とする。特に、施設のメンテナンス、ランニングコスト等に配慮し、効率的で環境負荷の少ない施設建設・運営に配慮する。
- (5) 周辺の住宅地との調和を図る。

2 庭園…現在の良い点を残しつつ、改修を行う。

次の基本的な考え方により、全体の施設構成をレイアウトする。

- (1) ユニバーサルデザインの視点から、利便性の向上を図る。
- (2) 大木は可能な限り保全する。
- (3) 現状の落ち着いた雰囲気を維持し、建物と庭園の関係を調和させる。
- (4) 近隣の環境に配慮しつつ、現在よりも庭園の開放感を高める。
- (5) 水環境の向上と、季節変化を楽しむことができる植生を目標とする。

3 施設の運用や利用方法の改善

次の基本的な考え方により、施設運用の運用や利用方法の改善を図る。

- (1) 予約方法の見直しなど、活動の場としての利便性の向上を図る。
- (2) 伝統文化を学ぶ場としての利用や国際交流など、事業の展開を図る。
- (3) 建物や庭園の維持管理計画を作成し、施設を永く使用する。

4 スケジュール

21年度	懇談会開催および改築基本構想の策定、基本設計
22年度	実施設計、解体および地盤改良等
23年度	工事
24年度	オープン

第4章 向山庭園改築の基本的な整備内容

1 基本的な考え方に基づく施設整備計画

(1) 全体計画

- ・周辺環境に配慮するとともにコスト面に留意しつつ、法令の範囲内で規模の拡充を図る。
- ・母屋と茶室、庭園の調和を図る。
- ・公共施設として要求される耐震性を確保するとともに、地盤沈下による悪影響を抜本的に改善する。
- ・気軽に庭園を利用しやすい動線計画とする。
- ・環境に配慮した工法で施工する。

(2) 建物の整備計画

① 母屋

- ・畳に座ることが困難な利用者等に対応するため、立礼席の導入など、誰にでも利用しやすい和風空間とする。
- ・木の仕上げをふんだんに取り入れる。
- ・駐車場、駐輪場を設置する。
- ・だれでもトイレを設置する。
- ・抹茶など簡易な飲食が提供でき、ケータリング（食事を配膳・提供するサービス）に対応できる設備とする。
- ・物販のサービスが提供できる設備とする。

② 茶室

- ・伝統文化を継承するため、小規模ながら本格的なしつらえとする。
- ・伝統的な木造和風空間とする。

(3) 庭園の整備計画

① 園路

- ・バリアフリー化により園路段差の解消を図り、庭園を散策しやすいように改善する。

② 植栽

- ・現状の雰囲気を守りつつ、四季を通じた花木を鑑賞できるなど、オリジナリティを高めるテーマ性を与える。

③ 池、流れ

- ・現状の雰囲気を守りつつ、より管理しやすい設備・工法を導入する。

(4) 周辺環境との調和

- ・正面の桜並木等を保存し、現状のまちなみとの調和を維持する。

- ・ 景観に配慮して敷地境界の土留め、目隠し塀、正門周辺の舗装などを行う。
- ・ 駅前や石神井川沿いの歩行ルートからのサインや誘導を整備する。

2 管理運営計画

(1) 施設運営

- ・ 気軽な立寄りから、団体利用、区への来賓まで幅広い利用を想定した運営とする。
- ・ より多くの人々に練馬の良さをアピールするため、施設の独自性を打ち出す。

(2) 利用方法

- ・ 活動の場としての利便性の向上を図るため、練馬区公共施設予約システムの導入を検討する。
- ・ これまでの利用実態を踏まえるとともに、平成 21 年 8 月の「文化芸術振興有識者委員会」の提言を踏まえ、伝統文化を学ぶ場、拠点としての事業展開を行う。
- ・ 外国の友好都市との交流や区内在住外国人向けの日本文化の普及事業等に活用する。

(3) 管理計画

- ・ 建物や設備の維持補修などの長期・短期計画を策定し、効率的かつ効果的に維持管理を行い、施設を長く良好な状態に保つ。
- ・ 庭園の植栽の剪定や管理作業などの長期・短期計画を策定し、植物の生育を適切に管理し、庭園の景観を常に良好に保つ。

向山庭園周辺案内図

